自由と暴力

あるメル友から、夫の暴力についての講演会の感想のメールをいただいた。暴力についての私なりのコメントを、次のように返信した。

「人間において最も大事な事は、自由であること。自由とは、選択出来ることが保障され、拒否することが保障されていること。拒否することを奪い、選択することを認めないのが暴力。時に、身体的苦痛で恐怖を与え、当事者の選択、拒否する自由を奪うことが身体的暴力。言動で、恐怖心を与えることで、当事者の選択、拒否する自由を奪うことが精神的暴力。

こう暴力を定義すると、国家の暴力、学校の苛め、親の虐待、夫からの暴力、差別、等々、全て解釈てきます。

アメリカが、悪の枢軸国に「自由を守る」という名の元で戦争を準備していることも、何故かが理解できると思います。

アメリカ云々はともかくとして、人類の歴史は、自由を得るための歴史でした。例えば異人種に生まれたという、自らの責任でないことで差別を受けるということは、人間としての自由が奪われることになるから、差別撤廃ということが大事なことになるのです。

ですから暴力をふるうということは、自らも暴力を受けることを肯定しているようなもので、自らが人間として最も大事な自らの自由を求めていないということになります。

そうでしょ、自らが自由を求めていれば、必然的に相手の自由を奪うような愚行はしないと思うのです。

ただ、みんなが拒否する自由、自由というだけでは、社会は成り立ちません。故に、人類は歴史の中で、民主主義を産みだし、それを守り、維持しようとしているのです。その最たるものが、主権在民による選挙というものです。故に選挙の投票に行かないということは、自らの自由を守ろうとすることを放棄していることになります。

暴力はいけない、虐めはいけない、と声高にいうだけでなく、自らの自由に絡めて説明する必要があるというのが、暴力に関しての私のコメントです。」

（2002 年 11 月 30 日　記）